

産業集積図る 協議会を設立

南足柄・開成

南足柄市東部と開成町南
部で企業の誘致とまちづく
りを進めようと、足柄産業
集積ビレッジ構想事業推進
協議会が25日、市、町、商
工団体などによって設立さ
れた。今後5年以内をめど
に、居住環境に関する住民
らの意向をくみながら産業
の集積を図る。

ちづくりが求められる」と
街の魅力を重視する考えを
示した。
ビレッジは約148軒。
うち南足柄市竹松の道の駅
予定地付近の約27軒と開成
町宮台の約5軒で、企業の
誘致と市街化区域への編入
を計画。誘致をめざす業種
には健康分野の未病産業、
研究開発型企業、地元製造
業などが含まれる。
同市和田河原と塚原の約
34軒は市街化調整区域のま
ま環境を改善する。河川緑
地整備、富士山の眺望を生
かす景観形成、スポーツ施
設の活用などが課題だ。
いずれも地権者らが「ま
ちづくり検討組織」をつく
り、事業や土地利用に関す
る合意の形成をめざす。

神奈川県新聞

2016年(平成28年) 5月26日 木曜日

神奈川 新

企業誘致へ協議会設立

南足柄市
開成町 地権者の意向を確認

南足柄市と開成町にまた
がる土地で企業誘致やまち
づくりを推進するための協
議会が25日、設立された。
両市町や地元商工会、学識
経験者らが参加。地権者や
企業の意向をくみ取りなが
ら、新たな産業の集積や、
周辺環境と調和した住環境
の整備などを進める。

同日に南足柄市役所で設
立総会が開かれ、会長に東
海大学の杉本洋文教授が就
任。本年度の事業計画案な
どが承認された。
協議会は①竹松壺下(南
足柄市)、宮台北(開成町)
地区の計約32軒に地元製造
業や、試作開発型や研究開
発型などの企業を誘致する
②和田河原塚原地区(南足
柄市)の約34軒で、住環境
の整備など都市的土地利
用を検討する一の2点を
進める。協議会とは別にそ
れぞれ作業部会も設け、①
はおおむね5年以内に市街
化区域への編入、②は3、
5年以内に都市計画
決定し、開発事業に
着手することを目指す。



会長に就任した杉本教授による
講演も行われた設立総会

南足柄市役所

初年度は地権者の
意向を確認すること
もに、企業に対する
ニーズ調査などを
行う。設立総会后、杉
本会長は「地権者の
多様な意見を基に、
開発やまちづくりの
方向性を定め、合意
形成を図っていき
たい」と話した。

(田口 要)

企業誘致など連携

南足柄、開成 推進協を設立

南足柄市と隣接する開成町が連携して企業誘致やまちづくりに取り組む「足柄産業集積ビレッジ構想事業推進協議会」の設立総会が25日、南足柄市役所であった。両市町にまたがる土地を有効活用

し、企業誘致や住環境の整備などを進め、足柄地域全体の発展と活性化を目指すという。ビレッジ構想は2006年3月に策定。さまざまな施策、事業を展開してきたが、10年が経過し、少子高齢化

による人口減少など構想を取り巻く状況が大きく変化しているとして、連携体制の強化など今の時代にふさわしい構想に改訂した。

改訂された構想には、観光・レクリエーションの交流拠点になる道の駅「金太郎のふるさと」（仮称）の開設による産業の活性化や雇用の創出などが盛り込まれている。

協議会は、企業誘致推進作業部会と南足柄市の和田河原塚原地区作業部会の二つで構成。おおむね5年以内を目標に市街化区域への編入などを進めていくという。【澤晴夫】

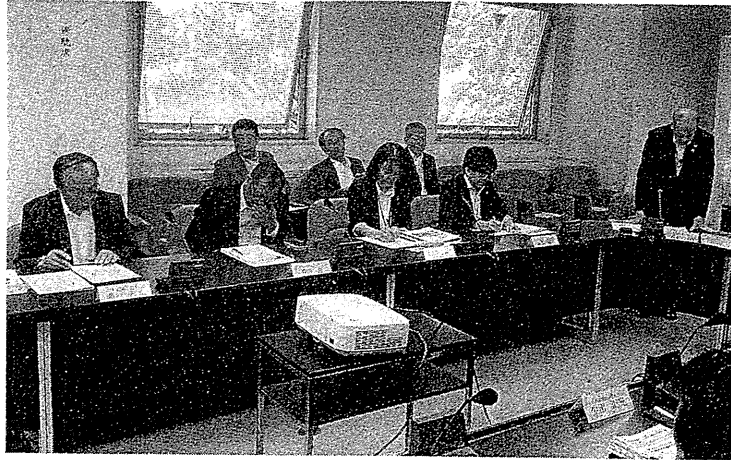
市町 柄成 足成 南開

事業推進へ協議会

5年以内
市街化へ

産業集積のまち 具体化

南足柄市と開成町が一体となった発展と活性化に向け、官民協働で具体的な取り組みを進めていくため、「足柄産業集積ビレッジ構想」の事業推進協議会が25日に発足。設立総会が同市役所で開かれた。



行政や民間の協議会メンバーが集まった設立総会

メンバーは両市町と県、学識経験者、商工会（南足柄市、足柄上）の約20人。会長は東海大学教授の杉本洋文氏が務める。企業誘致推進、和田河原塚原地区の2作業部会を設置し、地権者と積極的に話し合い、将来的なまちなちづくりの姿を練る。

企業誘致推進は両市町をまたぐ部分が対象で、構想では新規産業誘導地区の位置づけ。工業的な土地利用の推進に向け、地権者の意向を把握することも、勉強会などで具体的な使い方を探る。

進出を検討する企業のニーズも確認しながら、農地転用や土地利用計画策定も含め、今年度から5年以内で市街化区域への編入を目指す。市町の境界の地権者数は南足柄市195人、開成町25人。同地区の中には、南足柄市の重要事業（仮称）「道の駅」建設予定地も含まれ、市は予定通り2018（平成30）年の開業を目標にしている。

設立総会の冒頭で同市の石田和則副市長は、人口減少や地域の活力衰退、県の「未病」関連事業を挙げ、周辺環境の変化の激しさを強調。今後は「ビレッジ構想推進の情報交換、まちなちづくりの検討、戦略的な企業誘致を進め

たいと述べた。続けて杉本氏が講演し、両市町や小田原市など近隣地域が持つ高い価値を説明した。交通網（鉄道と道路）の発達、豊かな森林資源と水、土地が肥えていて農業（第一次産業）も盛ん、都心から近いという点がある。その上で「持続可能なまちなちづくり」として、地域の暮らしと産業が調和する理想像を提

示。100年先を見据えて協議が進んでいくよう、期待を込めてあいさつした。国、県、地元自治体による連携、産学官民の協働が重要だという。

市街化権限は県企業誘致へ理解

総会で開成町の小澤均副町長は、これから線引き（都市計画）見直しがある中、市街化

協議会事務局の南足柄市によると、すでに県に対して将来的な工業系土地利用の意向を伝え、その必要性が認められている状況にある。同席した県職員は、企業誘致など事業推進に向け理解を示した。

足柄産業集積ビレッジ構想は今年の春で策定からまる10年となり、このタイミングで改定されたばかり。将来像として「産・学・官の調和した足柄地域の理想郷の創出」を掲げる。対象地区の面積は148畝。